

## 2019年一斉結実期のオランウータンの塩場利用

松林尚志<sup>1</sup>、荒山 悠<sup>1</sup>、Peter Lagan<sup>2</sup>、結城悦子<sup>3</sup>、福田幸広<sup>3</sup>

(1 東京農大・野生動物、2 マレーシア・サバ州森林局、3 TOPOUTIMAGES)

動物にとって塩は必要不可欠。しかし植物にとってはむしろ害になるため、植物体にはほとんど含まれていません。そのため植物を食べる動物は、積極的にエサ植物以外から塩を取る必要があります。

これまで私たちはマレーシアのボルネオ島において、ミネラル類の供給源の一つとして、塩場（しおぼ；塩舐め場）と呼ばれる場所に着目し、研究を行ってきました。そして、塩場がオランウータンはじめ様々な哺乳類に利用されること、ミネラル摂取という生存にとっての重要性に加えて、出会いの場という繁殖にとっても重要な場所であることを示しました。さらに自動撮影カメラだけでなく、環境DNAによっても利用種を把握できることも明らかにしました。また、野生動物を考慮した熱帯商業林管理において、塩場を重点保護区とする提言が採用され、基礎研究が保全に貢献できることも示しました。

東南アジア熱帯雨林では一斉開花・一斉結実という固有の現象が知られています。2019年、一斉開花・結実が確認されたため、私たちはオランウータンの塩場利用を集中的に調べました。その結果、非一斉結実期とは大きく異なる結果が得られ、一斉結実はオランウータンの行動に大きく影響を与え、塩場の重要性がより強まることが示唆されました。本シンポジウムでは、2019年のフィールドワークを中心に紹介します。